

外国語教育研究所は群馬県における外国語教育の拠点として、外国語教育の充実、地域社会への貢献、グローバル人材育成及び国際交流の促進に寄与することを目的として、様々な事業に取り組んでいます。



▲明石塾のページ

2023年度明石塾 活動報告(10月~2月) 4年ぶりに海外研修を再開しました

明石塾22期生の活動は、2月17日をもって全て終了しました。本学教授陣の講義で国際的な視野を身に付け、研究員による英語授業ではコミュニケーションツールとしての英語に磨きをかけてきました。4年ぶりに再開された県内・県外フィールドワークやシンガポール・マレーシア研修では、日頃の研修の成果を発揮し、世界と日本のつながりについて学び、諸問題について地球規模で考え、国際的な視野をさらに広げるきっかけとなりました。

2023年度
明石塾
研修

日付	午前研修・講義 (10:00~12:30)	午後研修・講義 (13:30~16:00)
10月14日	英語研修⑨ Ethnocentrism Harry	英語研修⑩ Climate Change Harry
10月21日	東京フィールドワーク(国際協力機構 JICA / 東京ジャーミイ)	
11月11日	英語研修⑪ Environmental Issues Mark	東京フィールドワークのまとめ
11月18日	英語研修⑫ U.N. Mock Debate Dermot	社会人講義 日産自動車株式会社 富岡 渉氏
12月2日	英語研修⑬ Positive Intelligence Milena	明石先生著書講読 江原副所長
12月9日	英語研修⑭ Pronunciation for Listening Timothy	新塾長講義 塩澤寛樹塾長
12月16日	英語研修⑮ Malaysia and Singapore Harry	・テーマ討論② 江原副所長 ・海外研修事前研修
1月4日~1月9日	海外研修(シンガポール、マレーシア)	
1月20日	英語研修⑯ Debrief on Malaysia and Singapore Harry	明石先生御講義
2月3日	Preparation for the Final Presentation ①	明石先生御講義のまとめ
2月10日	Preparation for the Final Presentation ②	1年間の研修のまとめ
2月17日	Presentation Practice	成果発表会 修了式

東京フィールドワーク(10月21日)

群馬県から世界へ目を向けて異文化理解を深め、多角的な見方を身に付けるため、東京ジャーミイと国際協力機構JICAでの研修を実施しました。東京ジャーミイは国内最大のイスラム教のモスクで、日本では知る機会が少ないイスラム文化や、イスラム教の歴史の説明を受けました。国際協力機構では、JICA地球ひろばにて、世界の様々な問題を取り上げた展示を見学した後、広報部で活躍する明石塾第一期卒業生の緒方枝里奈さんから「世界に飛び込む第一歩」と題して御講義いただきました。



シンガポール マーライオン公園にて

シンガポール・マレーシア海外研修(1月4~9日)

アジアの中でも多文化国家であるマレーシアとシンガポールにおいて、「多文化主義の現状」についてフィールドワークを行いました。シンガポールでは、水問題を考えるため、ニューウォーターを訪問し、シンガポールが抱える問題について研修を受けました。マレーシアでは、農村を訪問し、プランテーションの現状を直接見ることで、東南アジアの農業に対し理解を深めました。現地では大学を訪問し、英語によるディスカッション等を通して、お互いの文化・社会について理解を深め、交流を図りました。

名誉塾長 明石 康先生御講義 1月20日

初代塾長である明石康名誉塾長が5年ぶりに本学に来学しました。前半は明石名誉塾長からの御講義をいただき、後半は塾生と明石名誉塾長の質疑応答が行われました。



塾生代表挨拶



塾生代表謝辞

質疑応答

齋藤 里菜さん(前橋女子高校1年)

明石先生にとって、幸福の定義とは何だと思えますか？

明石名誉塾長

幸福とは、何かを考えて嬉しいと思ったり、素晴らしいと思ったり、バラ色の人生を考えることではないかと思えます。何かを達成した、やり遂げたという満足感のある時に、幸福と感じるのではないかと思えます。しかし、自分の現在立っているところを忘れてはいけません。そういう夢を達成するためにも色々準備、つまり勉強が必要です。夢をもつことはよいけれども、ふわふわした空想やイメージーションだけでは、達成することが難しくなります。一步一步、あるいは半歩半歩ずつ進んでいくことがみなさんのような若い人たちに必要だろうと思えます。



入内島 未尋さん(前橋西高校2年)

世界各地で大きな紛争が起きています。世界平和の実現に向けて、群馬にいる私達はまず何をすべきでしょうか。

明石名誉塾長

何が適切かということは非常に難しいと思えます。こういう問題については、こちらはよい、こちらは悪いというのではなくて、できるだけ客観的な公平な立場に立ちたいですし、はっきりAであるかBであるか言えないような中間の立場もあるかもしれないということを考えるべきだと思います。色々な宗教が色々な立場をとっています。何が正しいか、どちらが正しいのか、よく歴史を勉強して色々な立場の人が書いたものを読んで、考えてみるのが大事だと思っています。



塾生の感想

- ・世界で起きている紛争の多くは、その国同士の過去の歴史が複雑に絡まって起きているため、物事を善悪だけではなく中立の考えや立場で考える必要があることを学びました。
- ・国連で実際に働いたことがあったり、独裁者と和平交渉したことがあったり、世界各地で平和維持活動などをしたことがあったりする明石先生からしか聞けない貴重なお話を対面で聞くことができ、本当に貴重な時間でした。
- ・明石先生の御講義を受けたことで、世界で人のために貢献したいと思う気持ちが強まりました。今回得られたことを今後の自分の将来に生かしていきたいです。
- ・世界中で誰かのために貢献できる人になるためには、まずは周りの人のためになるような行動をとり、何事にも真面目にあきらめずに取り組み、広い視野で物事を捉え、自分の目標に向かって進むことが大事だと思いました。



成果発表会・修了式 2月17日

これまでの明石塾での研修から得られた学びや気づきを英語で発表する研修成果発表会を実施しました。午前は、午後の発表に向けての最終確認を研究員と行い、発音や発表姿勢について個人指導を受けました。塾生たちは、研修の仕上げとして悔いのない発表ができるようにと繰り返し練習をしていました。午後の成果発表会では、明石塾での各研修について塾生が英語でプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションを聞きながら、各自が思い思いに明石塾での学びを振り返っていました。発表会後の修了式では、塩澤寛樹塾長(女子大学長)が一人一人に修了証書を授与し、「予測不能で変化の激しい時代にも、明石塾の卒塾生ならしなやかに対応していただけるはず。これからの日本を引っ張っていきましょう」と式辞を述べました。塾生代表挨拶では、尾瀬高等学校2年星野珠奈さんが、「自分で新たな道を切り開き、“思いっきり”個性を爆発できるような人になりたいと思います。塾生20人と出会い、ここで一緒に学んだ時間は私の最高の宝物です。機会を与えてくれた全ての方に感謝しています。ありがとうございました。」と挨拶しました。



研究員と成果発表に向けた練習



成果発表会



塾長式辞



塾生代表挨拶



高等学校連携英語授業 4技能の調和のとれた総合的英語能力の育成を支援しています

研究員によるモデル授業や個別授業支援では、高等学校のご要望や指導計画に応じた授業を実施しています。今年度後期は、沼田女子高校、高崎経済大学附属高校、伊勢崎高校、高崎商業高校、高崎女子高校、中央中等教育学校の6校で授業支援を行いました。英語を使ったインタビューや寸劇などのグループ活動を通して、文化やアイデンティティ、ステレオタイプやSDGsなどのテーマについての考えを深め、互いに議論しました。伊勢崎高校ではディベート授業を行い、生徒が1人1台端末を活用して世界各国の状況を調べてディベートのスピーチを作成し、意見を戦わせました。中央中等教育学校では、生徒の発表に対する指導・助言を行い、英語表現能力の向上を支援しました。高崎女子高校の国際理解授業では、単元のテーマ「異文化理解と固定観念」について、それぞれの研究員が日本で経験した例を紹介しながら英語の活動を行いました。

研究所では、高等学校との連携を深め、英語学習の環境づくりを通して生徒の英語力向上に寄与してまいります。高等学校連携英語授業のお申し込みについては、本学ウェブサイト「高等学校連携英語授業のページ」をご確認ください。



沼田女子高校



高崎経済大学附属高校



高崎商業高校



伊勢崎高校



中央中等教育学校



高崎女子高校

また、英語特別セミナー“Think-about-the-issues-around-you Seminar”では、英語を使ったコミュニケーション能力の向上と自己表現能力に磨きをかけることを目標に、身近にある社会問題や環境問題、偏見や思い込み等についての講義を受けてディスカッションを行い、学んだことを班ごとに発表しました。



本学国際コミュニケーション学部
山岡健次郎准教授による特別講義



研究員による英語研修



英語でディスカッションをする生徒



英語で発表をする生徒

English Help Desk 学生の英語学習を支援しています

英語学習にお困りの学生からの申し込み内容に応じて、研究所が一丸となって支援を行っています。個人やグループでの英会話練習、留学相談、英語資格試験対策、英作文の添削、卒論のデータ収集など、延べ474名(昨年度368名)の学生が利用し、「英会話に自信がもてるようになった」「留学への不安が解消された」など満足度100%を達成しました。



▲ English Help Desk
のページ



研究員と英会話を楽しむ学生

留学支援 留学の夢が次々に実現しています

留学支援実績

新型コロナウイルス5類感染症引き下げに伴う行動制限の緩和により、本学の「海外留学支援プログラム」を使って留学を実現させた学生数は51名とコロナ前の人数に回復しつつあります。また、語学だけでなく、その力を活かしてボランティア等のプログラムに参加する学生も増えてきました。外国語教育研究所では、学生の留学の夢の実現に向けて、留学説明会や危機管理セミナー、個別相談により安心安全な留学をサポートしていきます。



▲留学情報のページ

【令和5年度長期留学】 14名

国・地域	大学・研修機関名	留学先数	人数
カナダ	トンブソン・リバーズ大学(5) レスブリッジ大学(1) CCEL カナディアンカレッジ(1)	3	7
オーストラリア	インパクト・イングリッシュ・カレッジ(1) クイーンズランド工科大学(1)	2	2
ニュージーランド	ワイカト大学	1	1
台湾	国立高雄科技大学(交換留学)	1	1
マレーシア	マラヤ大学(交換留学)(2)	1	2
イギリス	サセックス大学	1	1
	計	9	14

【令和5年度短期海外研修】 37名

国	大学・研修機関名	留学先数	人数
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学附属英語学校(7), 西オーストラリア大学附属英語学校(7), グリフィス大学附属英語学校(3), English Unlimited, インパクト・イングリッシュ・カレッジ, ブラウンズ語学学校	6	20
カナダ	サイモン・フレーザー大学附属英語学校(3), トンブソン・リバーズ大学, バンウエストカレッジ, VGC International College, St. George International College, Centre of English Studies Vancouver	6	8
韓国	延世大学言語教育院語学堂(2), 慶熙大学言語教育院語学堂(2)	2	4
ニュージーランド	オークランド大学English Language Academy, Zealive Institute, International Volunteer HQ	3	3
カンボジア	International Volunteer HQ	1	1
マルタ	クラブクラス	1	1
	計	19	37

親善学生大使委嘱状交付式(1月16日)

1月16日(火)に令和5年度春季短期研修参加者(24名)及び令和6年度前期長期留学参加者(3名)に「群馬県親善学生大使」を塩澤寛樹学長から委嘱しました。塩澤学長は、「留学には冒険心が必要ですが、それは危険とも隣り合わせです。果敢に挑戦しつつも無事に安全に帰ってきてください。」と激励の言葉を述べました。大使代表として、高麗大学校(韓国)に交換留学をする出村萌衣さん(国際コミュニケーション学部2年)は、「交換留学生として自分の学びたいことを積極的に学び、様々なバックグラウンドをもつ学生と生活することで人間性も成長させたいと思います。親善学生大使として異なる文化をもつ人に群馬県について興味をもっていただけるよう活動したいと思います。」と抱負を述べました。また、内田善規事務局長、Rodney Biddle国際交流委員長(英米文化学科教授)からも激励の言葉をいただきました。



学生に委嘱状を渡す塩澤寛樹学長



塩澤学長へ抱負を述べる親善学生大使代表



激励の言葉を述べるRodney Biddle国際交流委員長
(左は内田善規事務局長)

グローバルカフェ 全3期計22回開催しました

研究員と気軽に英会話を楽しむことができる「グローバルカフェ」を今年度は年間通して全3期、計22回開催し、147名の一般県民の方々にご参加いただきました。参加者からは「毎回違う先生のグループに参加し、とても楽しかった。」や「学生を含め色々な方と話が出来て大変勉強になった。」などの声があがりました。



10月12日のグローバルカフェの様子



1月25日のグローバルカフェの様子



▲グローバルカフェのページ

明石杯高校生英語コンテスト 日頃の成果を出し切りました

11月10日(金)に「明石杯高校生英語コンテスト」(県高等学校教育研究会英語部会、群馬県教育委員会との共催)が本学を会場に開催されました。支部予選を含め162名(昨年度172名)が参加し、88名が本選に出場しました。プレゼンテーションの部のテーマは、「How can we update schools in Japan?」でした。高校生は、心を込めてスピーチを行い、審査員に自分の思いを伝えていました。



▲明石杯高校生英語コンテストのページ

2023年明石杯高校生英語コンテスト 結果

順位	部門	プレゼンテーション	レシテーション	スピーチ第1部	スピーチ第2部
1位		パスリジャ デイリティ (ぐんま国際アカデミー1年)	川口 美花 (前橋東 2年)	齋藤 弘貴 (共愛学園 2年)	蜂須賀 アンジェリーナ (共愛学園 3年)
2位		黒岩 真人 (前橋 1年)	新井 ちひろ (明和県央 2年)	白井 ね々 (新島学園 2年)	相澤 優心 (桐生第一 1年)
3位		野崎 愛莉 (新島学園 2年)	角田 叶花 (市立太田 2年)	十河 愛寧 (市立太田 2年)	フィンドレー デイジー 美咲 (新島学園 2年)
4位		福井 里琉 (四ツ葉学園中等 5年)	高橋 里佳子 (前橋育英 1年)	平松 珠妃 (高崎女子 1年)	
5位		星野 珠奈 (尾瀬 2年)	太田 七海 (伊勢崎清明 2年)	加藤 由佳理 (中央中等 4年)	
6位			小林 百花 (高崎商大附 2年)	井上 愛椋 (渋川女子 2年)	
特別賞		柴田 悠暉 (前橋 1年)	斉藤 侑那 (樹徳 1年)	平山 優実 (四ツ葉学園中等 4年)	椎名 ヒロカズ (玉村 2年)



小学生のプレゼンを聞く研究員

玉村南小学校の英語授業支援 研究員や本学学生に英語で発表をしました

玉村町教育委員会との連携事業として、研究員と本学の教職希望学生が「ゲストティーチャー」となり、6年生の英語授業支援を行いました。児童は1人1台端末のプレゼンテーションソフトを使って「夏休みの思い出」についてまとめ、英語でプレゼンテーションを行いました。児童はジェスチャーやアイコンタクトをまじえながら英語で自分の気持ちを伝えたり、ゲストティーチャーからの助言を聞いたりしていました。自分の英語が通じた達成感を味わい、自信を身に付けたようですが印象的でした。



▲外国語教育研究所ウェブサイト